

□10月8日 主日礼拝説教短縮版(隅野徹牧師)
「イエスのための盛大な宴会」(ルカ5:27～32)

この聖書からは大切なことがいくつも読み取れますが、私はこの箇所から「自分らしい伝道」「それまでの関わりを生かした伝道」が教えられると感じています。これは神学生に対してだけでなく、ここにおられるお一人お一人に当てはまります。レビのしていることは、特別なトレーニングがなくてもできる伝道なのではないでしょうか？

一昔前の教会で求められていたのは「強い、リーダー的な牧師」だったと思います。私の先輩の牧師の多くは、オールマイティーでなんでもできる方々です。聖書を良く知り、分かりやすい説教を語り、路傍伝道などにも熱心で、なおかつ悩む人の相談にも乗れる…。そんな姿を見ながら、「私はあんな牧師にはなれない…」そう思うことも多かったです。

しかし今はそのような、なんでもできるスーパーマンのような牧師像を求める時代ではなくなっていると感じます。そうではなく、自分がこれまで与えられたものを神・キリストのために生かし、神・キリストがなさった御業を、自分らしく自分の言葉で証しする。それができる多くの人々によって、今の時代の伝道は担われていくと私は信じています。

牧師など「教職」と呼ばれる人々によってだけ伝道がなされるのではありません。信徒の方々によっても伝道はなされていきます。すべての時間はささげられないけれど、少しの時間神のお手伝いをしたいという信徒を見つけ出し、そのような方が祈りのうちに用いられる…そんな働きが神学校を中心になされていくと、素晴らしいと思います。ぜひ皆様、ともに業を担ってまいりましょう。(終)